

原作並脚色者 帝キネ 時代映畫
監督者 高井清太郎
撮影者 佐藤樹一路
立花幹也



寫真「珍魚」帝キネ佐藤樹一路作品。右より
松枝鷗子、金澤美津子、實川延松と藤井實

——主要役割——

大工八五郎 實川延松
女房おかん 松枝鷗子
子供太一 藤井實
子供おつき 金澤美津子
藝妓おもん 鈴木信子
奉行大分伊豫守 尾上紋十郎

略筋——家では女房おかんが晦日の仕拂に弱つてゐるさいふに、大工八五郎は藝妓おもん等と遊んでるに、金も懐に持たずに歸つて来た。女房の手前魚釣をしたとこまかさうとしたが魚籠の中から蒲鉾やするめが出て、「するめはいかの乾したものだよ」と怒鳴られた。その頃品川沖に珍魚が捕れて名を申出でた者に百兩の賞を與へるこの制札を見た八五郎は出鱈目の名を申出でて賞にありついた。一杯かかつたのを知つた伊豫守は今度はその魚を干し固めて再び名を世間に問ふた。八五郎は又も出かけて以前の名と異つた名を云つた爲嘘言は明白になり捕へられて死罪と定つた。今は非を悔いた八五郎の生命も一瞬に迫つた折、伊豫守は意外にも彼を許したのみか改めて賞金をさへ與へた。何故なら伴太一の差出した願書にかう書いてあつたからである。「いかのほしたのをするめと申します。行さま」

かくて芽出度い結末をつけたのであつた。